

[参考資料]

1 千葉県の梨の全国的な位置付け（令和6年産）

千葉県の梨は、産出額・生産量・栽培面積全て全国順位で第1位となっています。

単位：億円、t、ha

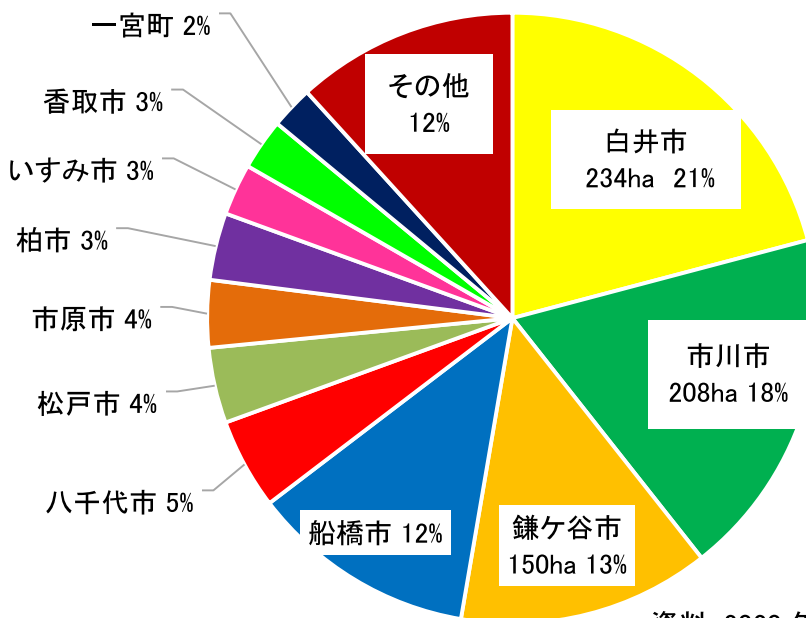
区 分		産出額	生産量	栽培面積
日本なし	千葉県	85	21,400	1,300
	全国	754	172,700	9,830
	全国順位	1	1	1
	千葉県シェア	11.3%	12.4%	13.2%

2 千葉県における梨の市町村別栽培面積

市町村別では、白井市（234ha、県内比率21%）が最も多く、次いで市川市（208ha、18%）、鎌ヶ谷市（150ha、13%）となっています。

特に県北西部で栽培が盛んです。

市町村別梨栽培面積（日本なし露地栽培）



資料：2020年農林業センサス

※本県の日本なし栽培面積と市町村別栽培面積は統計が異なるため一致しません。

3 「豊水」（ほうすい）の特徴

○「豊水」は、本県の梨全体の3割を占める主力品種です。

品種	幸水	豊水	あきづき	新高	その他※2
結果樹面積	6 6 3 ha	3 5 0 ha	1 0 0 ha	7 5 ha	5 0 ha
(比率) ※1	5 3 %	2 8 %	8 %	6 %	4 %
収穫時期	7 下～8 中	8 中～9 上	9 上～9 下	9 中～10 上	

結果樹面積は農林水産統計数値及び令和6年産特産果樹生産動態等調査の品種比率（※1）から推計

※2 その他品種は、王秋、かおり、甘太、秋麗、二十世紀、新興、にっこり、秋満月

○両親は、「幸水」×イー33（「石井早生」×「二十世紀」）

昭和47年に登録された品種です。

○果実は「幸水」より大きくなり、果汁が多く甘みと酸味のバランスの良さが特徴です。特に、完熟した「豊水」は、まさに極上の味といえます。

○8月下旬から9月中旬に熟します。日持ちは、室温で10日程度です。

4 「味が自慢の千葉の梨」のキャッチフレーズ

千葉県果樹園芸組合連合会では、昭和30年代から「味が自慢の千葉の梨」をキャッチフレーズにPRを行っており、現在では消費者の皆様幅広く知られるようになりました。

味が自慢のその訳は、

○千葉県は、土壌条件、気象条件に恵まれた梨の栽培適地で、糖度が高くおいしい果実を生産することができます。

○温暖な千葉県では、関東地方の中では最も早い時期に梨が収穫できます。主力品種の「幸水」は、暑さが厳しい8月上中旬に収穫最盛期を迎えます。8月下旬から出回る「豊水」も代表的な味のよい品種であり、昔から千葉の梨はおいしいと定評があります。

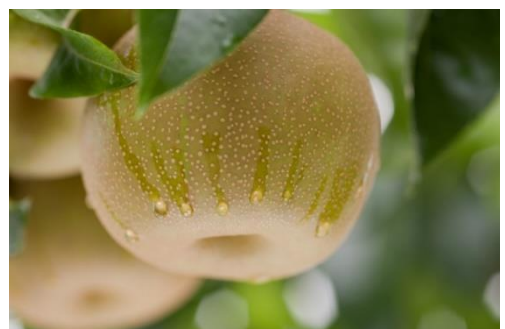
○消費地に近いため、遠隔産地と違って、完熟に近い状態で果実を収穫することができますので、味の良い新鮮な梨をお届けすることができます。

○千葉県の梨の生産者には、おいしい梨を作る高い栽培技術があります。江戸時代から続く千葉県内の産地は、長年蓄積された栽培技術があり、そして現在も、よりおいしい梨をつくるための技術研鑽に励んでいます。

5 本年の「豊水」の作柄

本年は、平年より早い開花となり、着果は平年並～良好で肥大も順調に進んでいます。

出荷は、8月下旬頃から始まる予定です。



6 審査概要

○審査員

審査委員長は千葉県農林総合研究センター長が務め、試験研究など梨栽培の専門家、小売店バイヤー、卸売会社、農協関係者の計11名が審査

○審査方法

果実の糖度、色沢、熟度、玉揃い、食味等から総合的に審査

○擬賞

特別賞17点（農林水産大臣賞、千葉県知事賞、農林水産省農産局長賞など）、奨励賞は出品総数の10%以内

○表彰式

令和8年11月5日（木）の開催を予定